

第2学年 国語科学習指導案

10月23日(水) 第5限 2年教室

指導者 内藤 直美

1. 単元名 人物の様子や気持ちに気をつけて読もう

～「名前を見てちょうだい」～(15時間完了)

2. 単元の目標

○場面に気をつけて、登場人物の様子や気持ちを読み取ることができる。

①場面ごとに登場人物の様子や気持ちを想像しながら、音読を工夫することができる。(読む)

②想像した登場人物の様子や気持ちをノートに書いて整理することができる。(書く)

③意見を交流することを楽しみ、友達の意見を聞いて読み深めることができる。(話す・聞く)

3. 単元について

本学級は、男子11名、女子11名、男女の人数バランスのとれた学級である。男女を問わず、興味が同じ方向に向いている時は、誰とでも仲良く遊ぶことができる。しかし、自分の思いをうまく友達に伝えられなかったり、友達の話の意図をきちんと理解できなかったりして、トラブルになることも多い。単学級でクラス替えがないため、困っている時に、友達の性格、気持ちを察して助けてあげられるというよい点もあるが、話すことが苦手な子は、本来自分で伝えるべきところをきちんと伝えられないままで済ませてしまうことがある。「話す・聞く」力は、国語の学習だけでなく他の学習の基礎や豊かな生活の基盤にもなる。友達・教師等、他者とコミュニケーションを図るためにも、発達段階に応じてきちんと身につけておかなければならないものであると切実に感じている。

本校では、国語の物語教材を豊かに読み深めていくために、意見交流する時間(話す・聞く)を大切にしている。そのために、書くⅠ→交流Ⅰ(ペア)→交流Ⅱ(全体)→書くⅡ、という授業の流れの形を作り、全校で実践を進めている。意見交流で、どの子も自信を持って発言できるようになってほしいと考え、ペア学習を取り入れ、隣同士で意見を交換してから全体での意見交流をする形をとっている。しかし、1学期、物語教材「お手紙」で、ペア学習を取り入れて学習したが、いつも発言ができない子は、やはり発言することができなかった。ペア学習が意見を言い合うだけで終わり、自信をつける活動にはならなかったのではないかとと思われる。

「名前を見てちょうだい」は、主人公えっちゃんが風に飛ばされた自分の帽子を取り戻す物語である。場所や登場人物の変化も分かりやすく、子どもたちが想像力を働かせ、楽しく読みを深めることのできる作品である。動作化を取り入れながら音読方法を考えることで、イメージをふくらませた読み取りにつなげていきたい。そして、ワークシートの吹き出しを使い、場面ごとにえっちゃんの気持ちを想像して書かせることで、えっちゃんの気持ちに迫らせたい。学習の方法をパターン化していくことで、子ども達は学習の流れを理解し、えっちゃんの気持ちを想像することに集中できるであろう。また、ペア学習の形を見直し、お互いを認める話型を提示することで、全体の意見交流で発言するための自信をつけることができるであろう。授業のふりかえりでも、意見交流でよい考えだと思った子を1人挙げ、その子の名前を入れた感想が書けるように話型を提示する。友達の発言のよさを見つけるには、話し合いに参加しなければならない。そのためには、「話す」と同時に「聞く」ことも必要になってくる。

お互いを認め合うことで、自信をつけて発言し合うことができる温かい学級の雰囲気を作っていきたい。

4. 単元構想

通読 音読練習
精読 音読の工夫(会話文・地の文)
味読 読み取りを生かした音読

物語のとびらを開こう (4)

- 学習の見通しを持とう①
 ・単元のねらいを確かめる
 ・範読・音読練習・感想の交流
 大まかな内容をとらえよう②
 ・読みの耕し・新出漢字・語句の意味
 場面分けと登場人物の確認①

- ・ぼうしが何回もとんでいくのが、おもしろい。(51)
→くりかえしのおもしろさ
- ・きつねと牛のぼうしは、えっちゃんのぼうしとおなじ?(32)
- ・大男がぼうしをたべたのがおもしろい。(63)
- ・えっちゃんが、きよだいかするのがふしぎ。(21)

〈並行読書〉
※読み聞かせをして読書への興味を広げる。

「ねこのなまえ」
というひろし
※名前の大切さを考えるきっかけにしたい。

登場人物の気持ちを想像しながら読もう (6)

場面ごとに登場人物の気持ちを読み取ろう⑦

時	場面	えっちゃんの気持ち	キーワードにしたい言葉
第1時	1・2場面 ぼうしをもらった時	新しいぼうし、 うれしい だいにしたい	青い糸でしゅう、 「ふ、め、だ、え、つ、こ。うふっ。ありがたう。」 ぎゅうっと、さっそく
第2時	3場面 ぼうしの名前がかわった時(きつね)	ふしぎ。 でも、わたしのぼうしだよ。	「へんねえ。」 「あたしの名前が書いてあるわ。名前を見てちょうだい。」
第3時	4場面① ぼうしの名前がかわった時(牛)	ふしぎ。 でもやわばり、わたしのぼうしだよ。	「へんねえ。」 顔を見合わせたとき、 「名前を見てちょうだい!」
第4時	5場面① 1人だけかえらなかつた時	わたしのぼうしをたべるなんて、ゆるさない。	ふしぎそうにながめて、 じろりと、ばくん(大男) 後ずさり、風のように走って行って (きつね、牛) おねをはって、 きりりと(えっちゃん)
第5時	5場面② 大きくなった時 (本時9/15)	おこっている。ぜったいにぼうしをとりかえしたい。	「あたしのぼうしだもん。」 湯気がもうもうと、くわあんと、 「おこっているから、あついわよ。」 たみのような手のひらをまっすぐのばして 「あたしのぼうしをかえなさい。」
第6時	5③・6場面 あっこちゃんの家に行く時	ほっとする。 わたしのぼうし、たいせつにしよう。 ふしぎなできごとだったなあ。	「あつ、あたしのぼうし。」 たしかに、そう書いてあります。 「ああ、よかった。」、あらら

「わたしのぼうし」
さのようこ
※ぼうしを大切に
するお話。持ち物に
対する愛着に気づかせ
たい。

「白いぼうし」あまんきみこ
※ぼうしにししゅう、鮮やかな色の表現等、「名前を見てちょうだい」に通じるところがある。あまんきみこのファンタジを味わうきっかけにしてほしい。

※えっちゃんの気持ちを想像させ、ワークシートに書かせる。

音読発表会をしよう! (5)

- 5場面の音読をグループごとに工夫する。③
 (役割分担・音読の工夫の相談・練習)
 音読発表会②

5. 本時の指導 (9 / 15 時)

(1) 目標

- 「あたしのぼうしをかえしなさい。」の音読の工夫をすることができる。(読む)
- 大きくなった時のえっちゃんの気持ちを考えて、意見交流することができる。(話す・聞く)
- 意見を聞いて、自分の思いを強くしたり、違う考えに共感したりすることができる。(書く)

(2) 展開

めあて
大きくなった時のえっちゃんの気持ちを考えよう

- 本時のめあてを確認し、ノートにめあてを書く。
- 5場面の中心 (P14、8行目～P15、12行目) を音読する。(段落読み)

えっちゃんの気持ちが分かるところを発表しよう

※気持ちが分かる部分に、家庭学習で赤線を引かせておく。気持ちがだんだん盛り上がっていくことが分かるように板書し、確認する。

おねをはって、きりりと
 「あたしはかえらないわ。だって、わたしのぼうしだもん。」
 湯気がもうもも[←]と出てきました。
 ぐわあんと
 「たべるならたべなさい。あたし、おこっているから、あついわよ。」
 湯気を立てた[←]
 また、ぐわあんと
 大男とおなじ大きさになってしまいました。
 たたみのような手のひらをまっすぐのばして
 「あたしのぼうしをかえしなさい。」

- 3つの会話文を音読する。(読む)

15分

書く I (書く・ワークシート)

「あたしのぼうしをかえしなさい。」と言った時のえっちゃんの気持ちをふきだしに書こう

※机間指導し、なかなか書けない子には、会話文から言葉を見つけ、書けるように声がけする。自分なりに考えた言葉を付け加えられている子を認め、ほめていく。

交流 I ペア (話す・聞く)

となりの子と交流しよう

交流 II 全体 (話す・聞く)

みんなで交流しよう

- ・お母さんからもらったわたしのだいじなぼうしだからかえして。
- ・わたし、すごくおこっているから、かえさないとしょうちしないわよ。

5分

3分

17分

書く II (書く・ノート)

友だちの名前を入れてふりかえりをしよう

ぼうしを取り返したいというえっちゃんの強い気持ちを想像することができた。

※友達の発表を聞いて、よい考えだなあと思ったことをノートに書く。

5分

次時：ぼうしがもとにもどった時のえっちゃんの気持ちを考えよう。

2 1
 えっちゃんが「巨大化した」という言葉をみんなに広めた。表現力が豊かなので、全体の交流でえっちゃんの強い気持ちを自分の言葉で伝えてほしい。友達の意見を聞いて、自分の考えに付け足しができるとよい。

5 4
 読書量は多いが、発言は少ない。この作品に大変興味をもち、発言もふえてきた。付け加える言葉は少なくともよいので、隣の子との交流で自信をつけ、全体の交流で自分の思いを素直に表現させたい。